

資料編

1 政策目標に関連する主な部門別計画等

2 計画策定の経過

3 市民意見

4 さっぽろまちづくりトーク

5 大学との意見交換、出前講座

6 パブリックコメント手続き

7 計画（案）からの変更点

8 人口の動向、社会資本の整備状況

9 前計画（札幌新まちづくり計画）の実施状況

I 実施状況の概要

II 重点戦略課題別実施状況

III 成果指標の状況

IV 主な施設、サービス水準の状況

1 政策目標に関連する主な部門別計画等

政策目標 1 子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街

- 札幌市次世代育成支援対策推進行動計画（さっぽろ子ども未来プラン） 【平成16年9月策定】
- 札幌市教育推進計画 【平成16年9月策定】
- 札幌市幼児教育振興計画 【平成17年12月策定】
- 札幌市特別支援教育基本計画 【平成15年3月策定】
- 札幌市立高等学校教育改革推進計画 【平成15年2月策定】

政策目標 2 主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街

- 区の目指すべき方向性 【平成13年5月策定】
- 市民活動促進に関する指針 【平成13年7月策定】
- 第2次札幌市生涯学習推進構想 【平成19年3月策定】
- 札幌市科学技術振興ビジョン 【平成16年6月策定】
- 事業環境整備構想 【平成17年6月策定】

政策目標 3 高齢者・障がい者へのぬくもりあふれる街

- 札幌市地域福祉社会計画 【平成15年3月策定】
- 第4期札幌市高齢者保健福祉計画 【平成18年3月策定】
- 第3期札幌市介護保険事業計画 【平成18年3月策定】
- 札幌市障害者保健福祉計画 【平成15年3月策定】
- 第1期札幌市障がい福祉計画 【平成19年3月策定】
- 札幌市福祉のまちづくり推進指針 【平成12年12月策定】
- 札幌市住宅基本計画 【平成17年3月策定】
- 札幌市交通バリアフリー基本構想 【平成15年3月策定】

政策目標 4 安全・安心で、人と環境にやさしい街

- 札幌市都市計画マスタープラン 【平成16年3月策定】
- 札幌市緑の基本計画 【平成11年6月策定】
- 緑を感じる都心の街並み形成計画 【平成17年9月策定】
- 札幌市水環境計画 【平成15年10月策定】
- 札幌市環境基本計画 【平成17年3月策定】
- 札幌市環境教育基本方針 【平成19年3月策定】
- 札幌市円山動物園基本構想 【平成19年3月策定】
- 札幌市温暖化対策推進計画 【平成19年3月策定】
- 札幌市一般廃棄物処理基本計画 【平成12年3月策定】
- さっぽろ都市農業ビジョン 【平成18年3月策定】
- 札幌市地域防災計画 【平成10年10月策定】
- 市有建築物耐震化緊急5カ年計画 【平成19年1月策定】

政策目標 5 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街

- 札幌市芸術文化基本構想 【平成9年5月策定】
- 札幌市スポーツ振興計画 【平成15年3月策定】
- 札幌市健康づくり基本計画（健康さっぽろ21） 【平成14年12月】
- 札幌市都市計画マスタープラン 【平成16年3月策定】 【再掲】
- 都心まちづくり計画 【平成14年6月策定】
- さっぽろ都心交通計画 【平成16年7月策定】
- 緑を感じる都心の街並み形成計画 【平成17年9月策定】 【再掲】
- 札幌市都市再開発方針 【平成16年4月策定】
- 札幌市景観計画 【平成18年5月策定】
- 札幌市交通バリアフリー基本構想 【平成15年3月策定】 【再掲】
- 藻岩山魅力アップ構想 【平成19年8月策定】

※大幅な改定を行った計画等の策定年月は、改定年月を記載している。

2 計画策定の経過

平成19年

6月7日	<p>■施政方針「さっぽろ元気ビジョン 第2ステージ」の公表</p> <p>○施政方針で示した、まちづくりの基本的方向性を実行に移すため「まちづくりのプラン」を策定することとした</p>
6月7日	<p>■第2次札幌新まちづくり計画策定方針を全庁に通知</p>
6月8日	<p>■第2次札幌新まちづくり計画策定方針の公表</p> <p>■市民意見募集の開始</p> <p>○ハガキ・Eメールなどにより、8月31日まで募集</p> <p>○有識者アンケート・子どもアンケート実施（6月11日）</p> <p>○出前講座等実施（7回）</p>
6月20日	<p>■平成19年第2回定例市議会議案審査特別委員会で策定方針について審議</p>
8月13日	<p>■主な想定事業の公表</p> <p>○計画体系や重点課題のイメージをつかみやすいよう、計画体系に沿って、主な想定事業（案）や成果指標（案）を公表</p>
8月23日	<p>■さっぽろまちづくりトークの開催</p> <p>○今後のまちづくりについて、市民の皆さんと一緒に考えていくため、座談会や来場者の意見・質問に基づくフリートークを実施（来場者約200名）</p>
10月10日	<p>■第2次札幌新まちづくり計画（案）の公表</p> <p>■パブリックコメントによる市民意見募集の開始（～11月8日）</p>
10月11日	<p>■市議会財政市民委員会へ報告等</p> <p>○第2次札幌新まちづくり計画（案）について報告・審議</p>
10月12～30日	<p>■平成19年第3回定例市議会決算特別委員会で、計画事業などについて審議</p>
11月28日	<p>■市議会財政市民委員会へパブリックコメントの状況について報告</p>
12月18日	<p>■第2次札幌新まちづくり計画の公表</p> <p>○計画（案）からの変更内容や、パブリックコメントに基づく市民意見等の概要と市の考え方を併せて公表</p>

3 市民意見

計画の策定にあたっては、平成19年4月から施行された札幌市自治基本条例の理念に則り、さまざまな手法で市民意見の把握に努めました。

6月に策定方針を公表してから、ハガキ、Eメールでのご意見のほか、有識者、子どもアンケートなどを通じて市民意見を聴取しました。これらのご意見は、施策の検討と事業選定の段階で参考としました。

また、定期的に行われている市民アンケートの結果は、計画策定前の調査であることから、第2次札幌新まちづくり計画策定方針を検討する段階で参考としました。

I 市民意向調査の概要

1 平成18年度第2回市民アンケート（一般市民アンケート）

- 調査期間 : 平成18年（2006年）12月4日（月）から12月27日（水）
調査対象者 : 札幌市全域の20歳以上の男女10,000人（住民基本台帳からの「等間隔無作為抽出」）
調査方法 : A4判8ページの調査票を郵送し、返信用封筒で回収
調査内容 : 5つのまちづくり分野において重要と思うものを選択するとともに、まちづくりに関する意見を自由記載
回収数 : 4,990通（49.9%） 自由記載意見件数 : 1,514件

2 有識者アンケート

- 調査期間 : 平成19年（2007年）6月11日（月）から6月22日（金）
調査対象者 : 札幌市の附属機関等の委員216人
調査方法 : A4判4ページの調査票を郵送し、返信用封筒で回収
調査内容 : ①専門分野における特に優先して取り組むべきことを選択するとともに、「市民」「地域・NPO（非営利組織）等」「企業」「行政」などに期待される役割や活動を記載、②市民自治（共通）と専門外の5つの分野において優先的に取り組むべきことを選択するとともに、まちづくりに関する意見を自由記載
回収数 : 84人（38.9%） 自由記載意見件数 : 448件（各主体の役割への意見:320件）

3 子どもアンケート

- 調査期間 : 平成19年（2007年）6月11日（月）から6月22日（金）
調査対象者 : ①平成18年度子ども議会議員55名、②市内の小中高生 約430人
調査方法 : A4判4ページの調査票を①郵送し、返信用封筒で回収、②学校単位で配布、回収
調査内容 : ①今の札幌市について思うことを選択、②住み良いまちをつくるために特に力を入れて欲しいものを選択するとともに、住み良いまちにするための意見を自由記載
回収数 : 382人 自由記載意見件数 : 454件

4 市民意見募集

- 調査期間 : 平成19年(2007年)6月7日(木)から8月31日(金)
募集方法 : ハガキ、FAX、Eメール、ホームページ上の投稿フォーム
返信用ハガキ付き意見募集チラシを市役所、区役所、各まちづくりセンターなどで配布
募集内容 : 第2次札幌新まちづくり計画についての意見・提言を募集
意見提出 : 78人 意見件数:157件

5 さっぽろまちづくりトーク(会場にて回収した意見分)

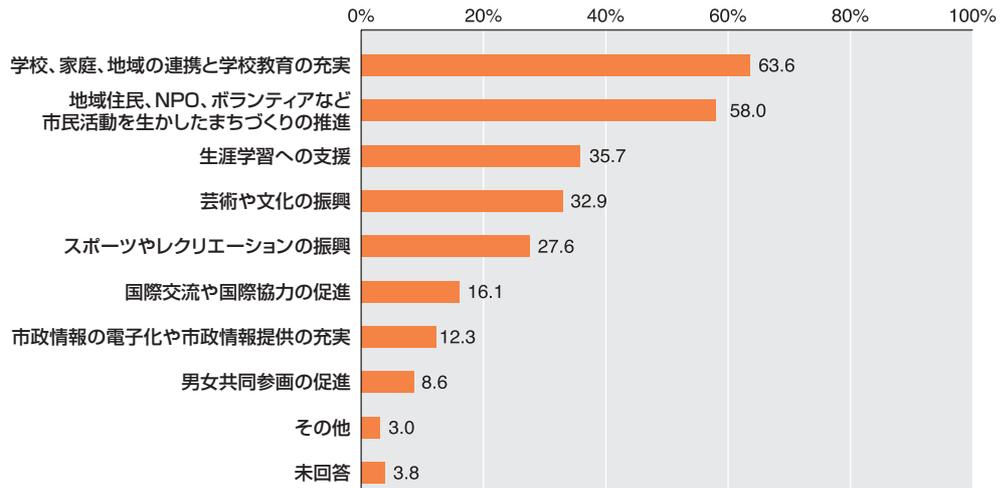
- 調査期間 : 平成19年(2007年)8月23日(水)
調査対象者 : 来場された方
募集方法 : 来場された方に用紙を配布し、回収
募集内容 : 第2次札幌新まちづくり計画及びその他のまちづくりについて意見を募集
意見提出 : 70人 意見件数:100件

II 市民意向調査の結果

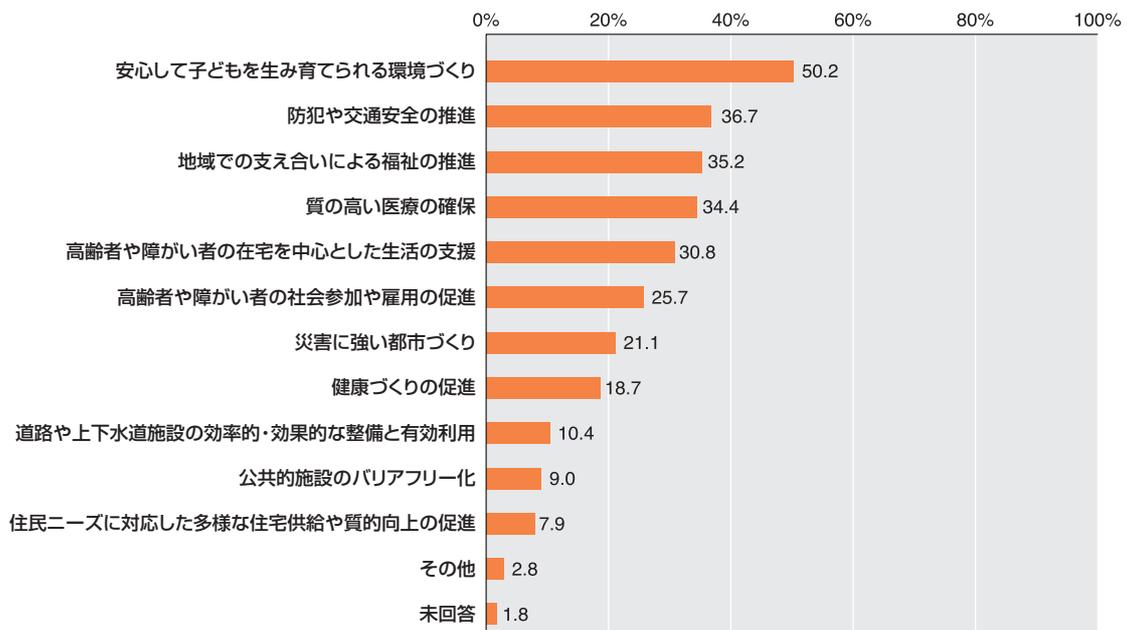
1 市民アンケート結果

○テーマ 「まちづくりに関する意識について」

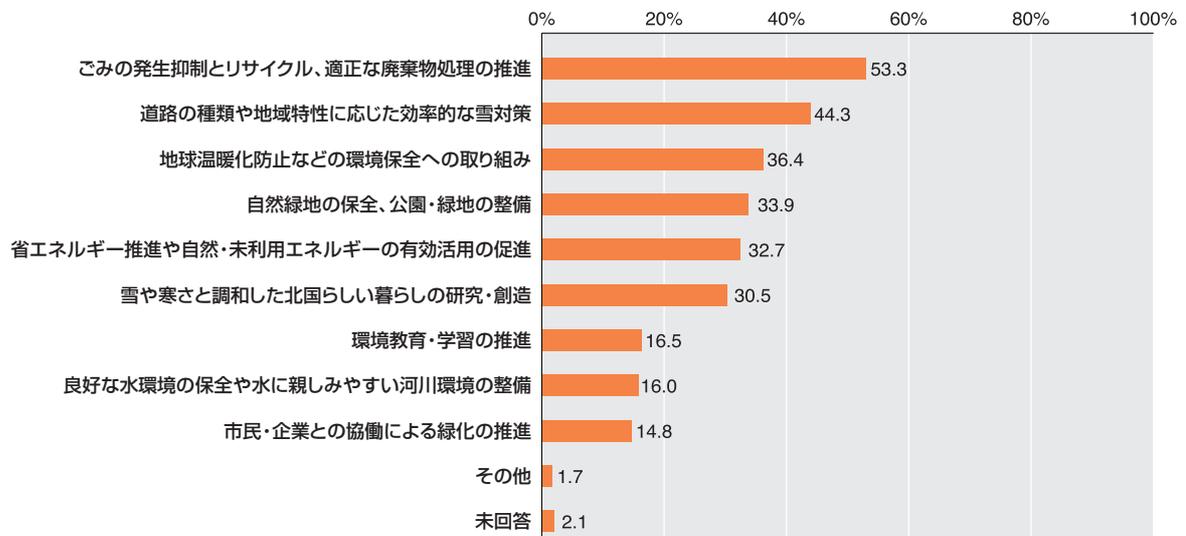
① 市民の創造性を高める環境づくりについて重要と思うもの（3つまで）



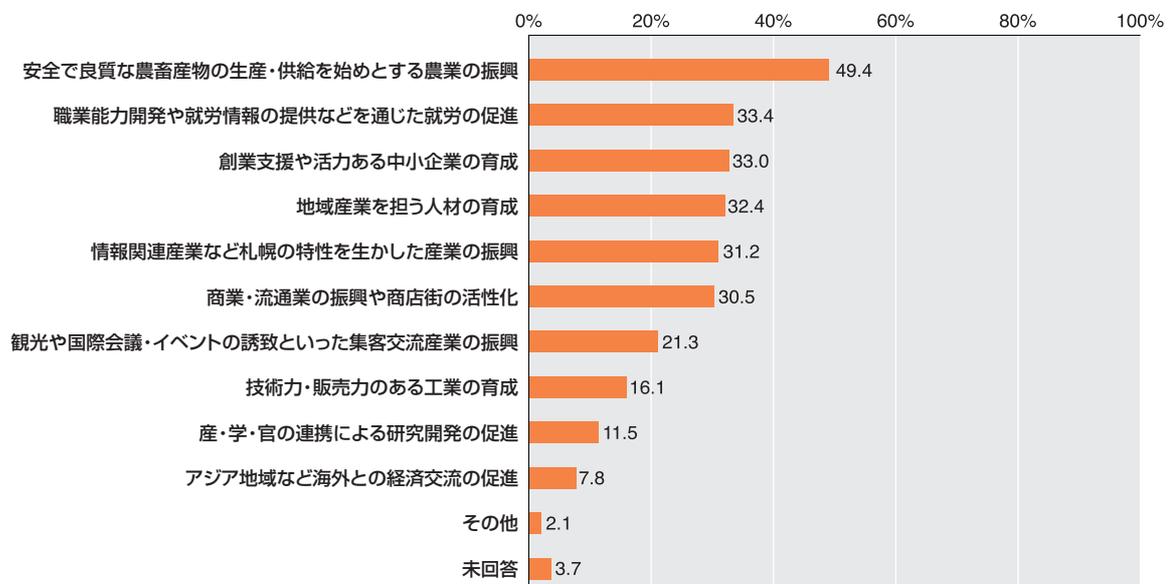
② 安心・快適に暮らせる地域社会について重要と思うもの（3つまで）



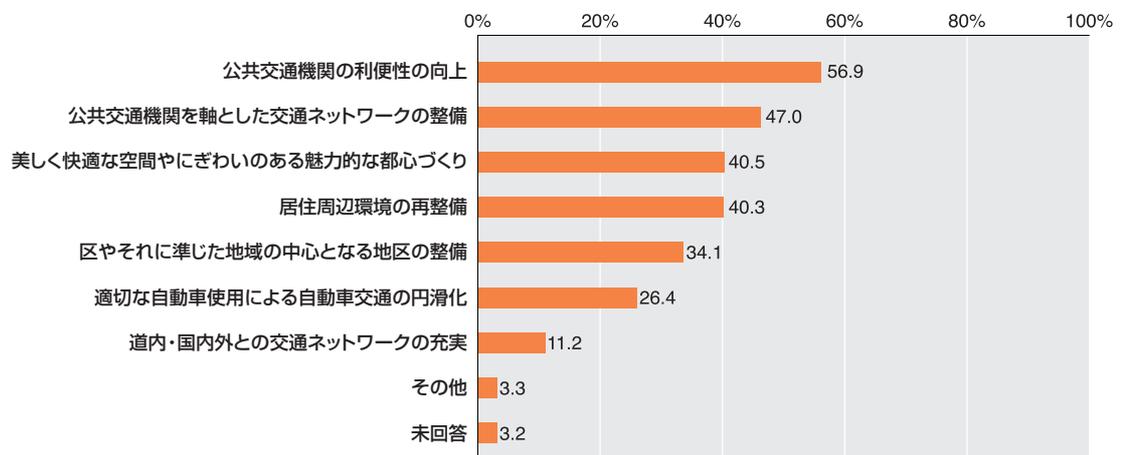
③ 環境への負荷を減らす取り組みについて重要と思うもの（3つまで）



④ 地域経済の活性化について重要と思うもの（3つまで）



⑤ 都市空間や交通体系の整備について重要と思うもの（3つまで）



⑥ その他、まちづくりで特に重要と思うことについて（自由記載：1,514人が回答）

1	除雪や雪利用といった冬の暮らしに関すること	232件
2	住民主体の地域のまちづくりの推進に関すること	155件
3	自然環境の保全や緑化の推進に関すること	116件
4	日常の安全な暮らしに関すること	113件
5	総合的な交通ネットワークの整備に関すること	111件
6	市民一人一人の公共マナーの向上に関すること	85件
7	バリアフリー化の推進に関すること	78件
8	安心して子どもを産み育てられる環境づくりに関すること	77件
9	公共交通機関の利便性向上や適切な自動車利用に関すること	73件
10	効率的な行政運営に関すること	72件

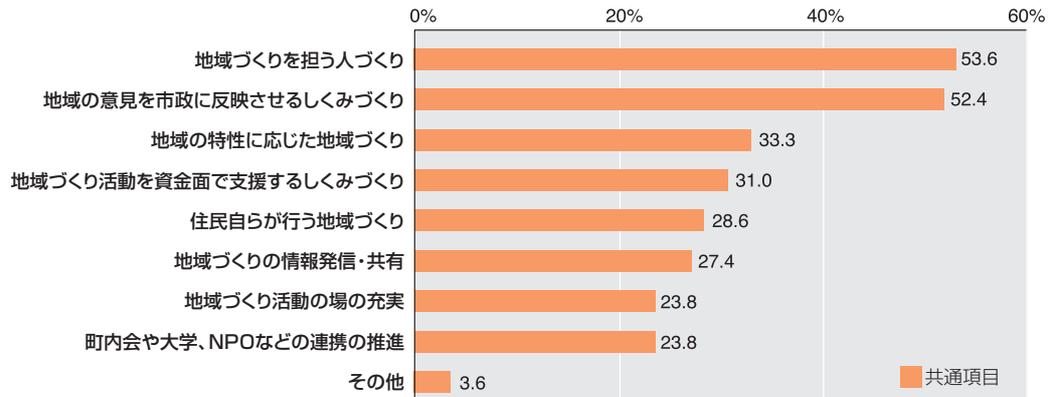
※市民アンケートの結果概要は、札幌市ホームページに掲載しています。

(http://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/citi_enq/)

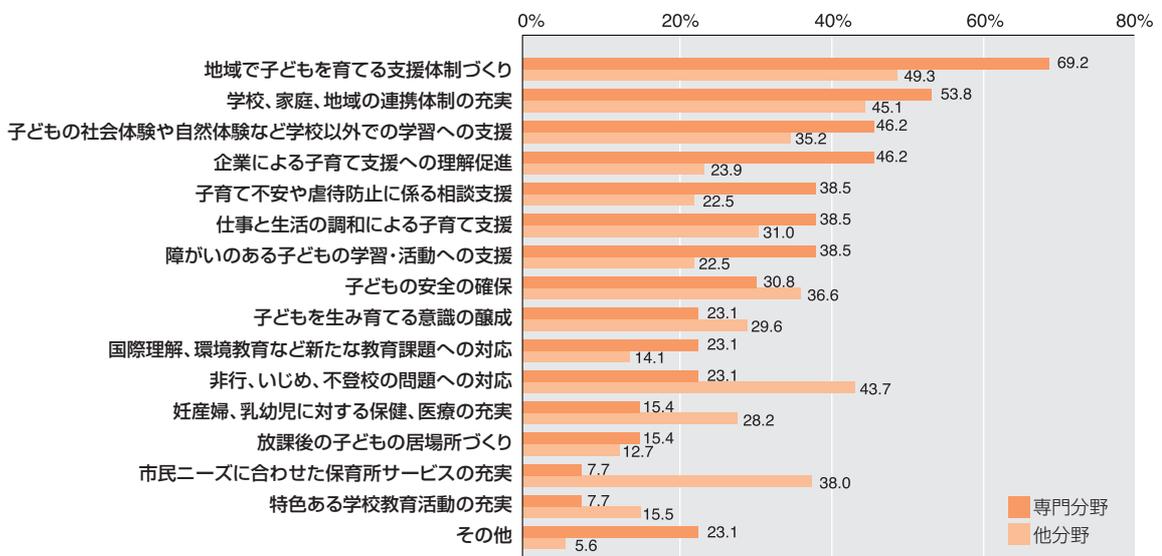
2 有識者アンケート結果

それぞれの分野の有識者から、共通項目①と専門分野項目②～⑦について回答をいただき、結果は以下のとおりでした。（専門分野項目②～⑦については、当該専門分野の有識者とその他分野の有識者の回答を分けて集計しています。）

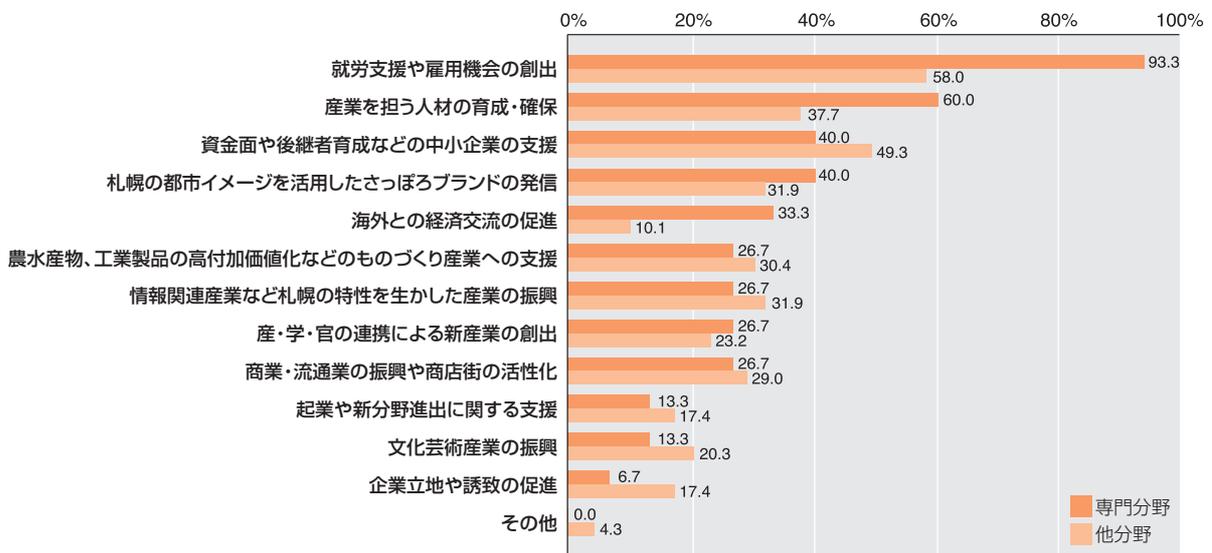
① 市民自治を進める上で特に重要と思うもの（3つまで）



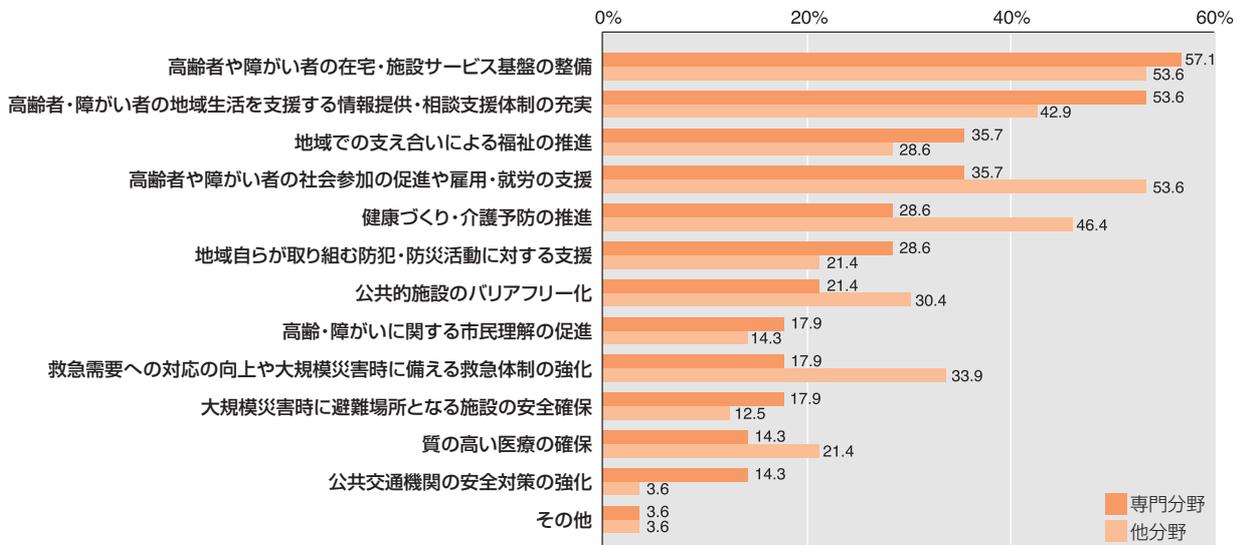
② 子育て・教育の分野で特に重要と思うもの（5つまで）



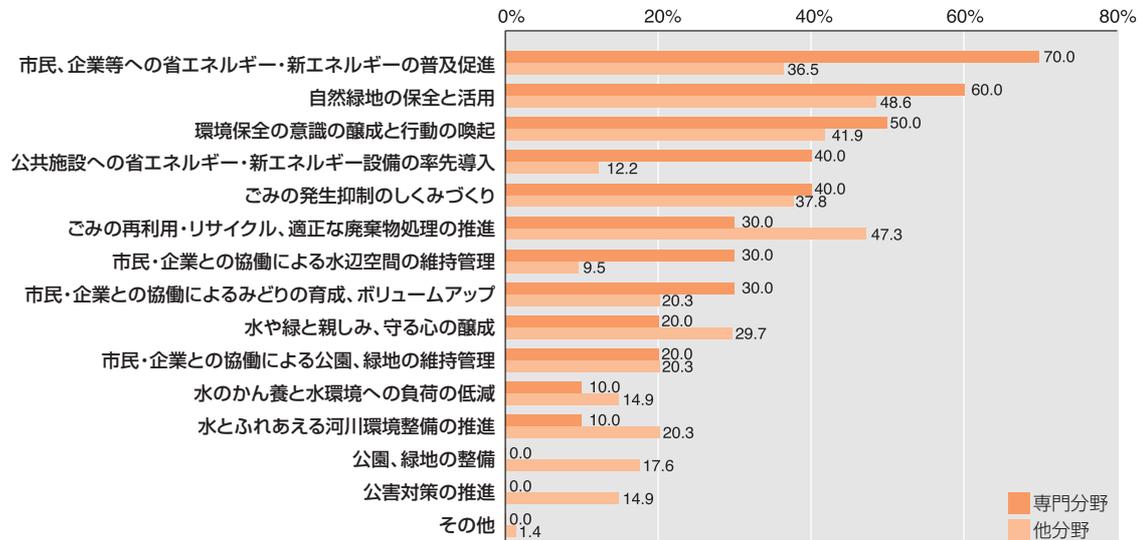
③ 経済の分野で特に重要と思うこと（4つまで）



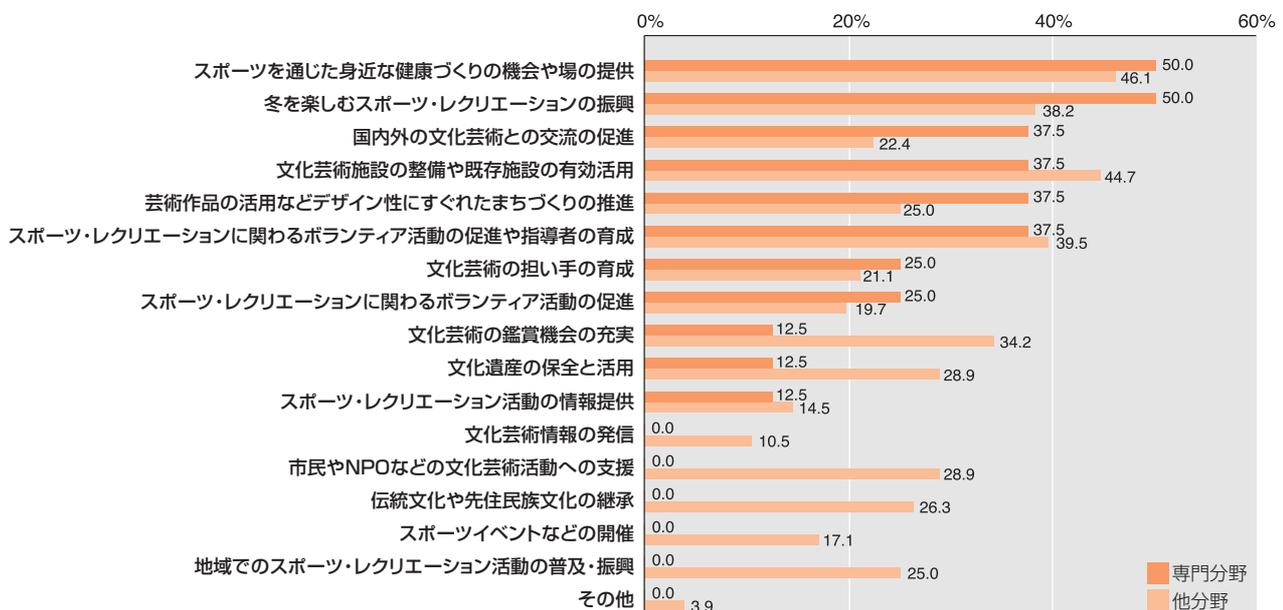
④ 福祉、安全・安心な暮らしの分野で特に重要と思うもの（4つまで）



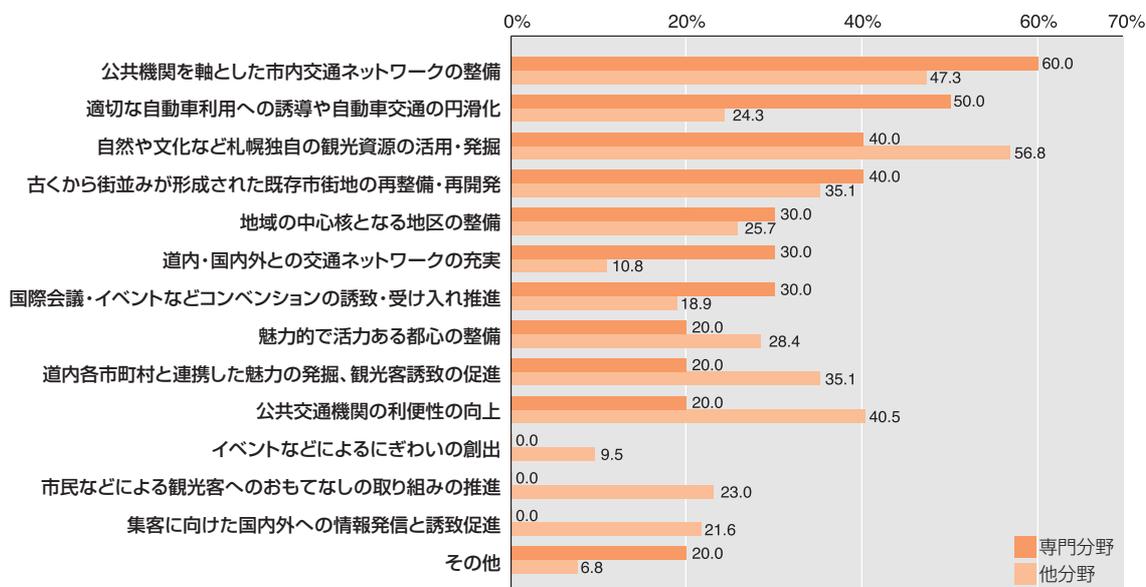
⑤ 環境保全の分野で特に重要と思うもの（4つまで）



⑥ 文化芸術、スポーツ・健康づくりの分野で特に重要と思うもの（5つまで）



⑦ 都市整備、都市の魅力づくりの分野で特に重要と思うもの（4つまで）



○ 各分野における「まちづくりの担い手」と「それぞれの担い手に期待される役割や活動」について

「まちづくりの担い手」と「それぞれの担い手に期待される役割や活動」について、分野ごとに以下の件数のご意見をいただきました。

「担い手に期待される役割や活動」に関するご意見については、重点課題ごとのまちづくりを担う「各主体の主な役割」を検討するにあたり、「札幌新まちづくり計画」で設定した内容を継承しつつ、新たな内容を取り入れるための参考としました。

まちづくりの担い手となる組織のあり方に関するご意見、その他のご意見については、今後の計画の推進や行財政運営にあたっての参考とします。

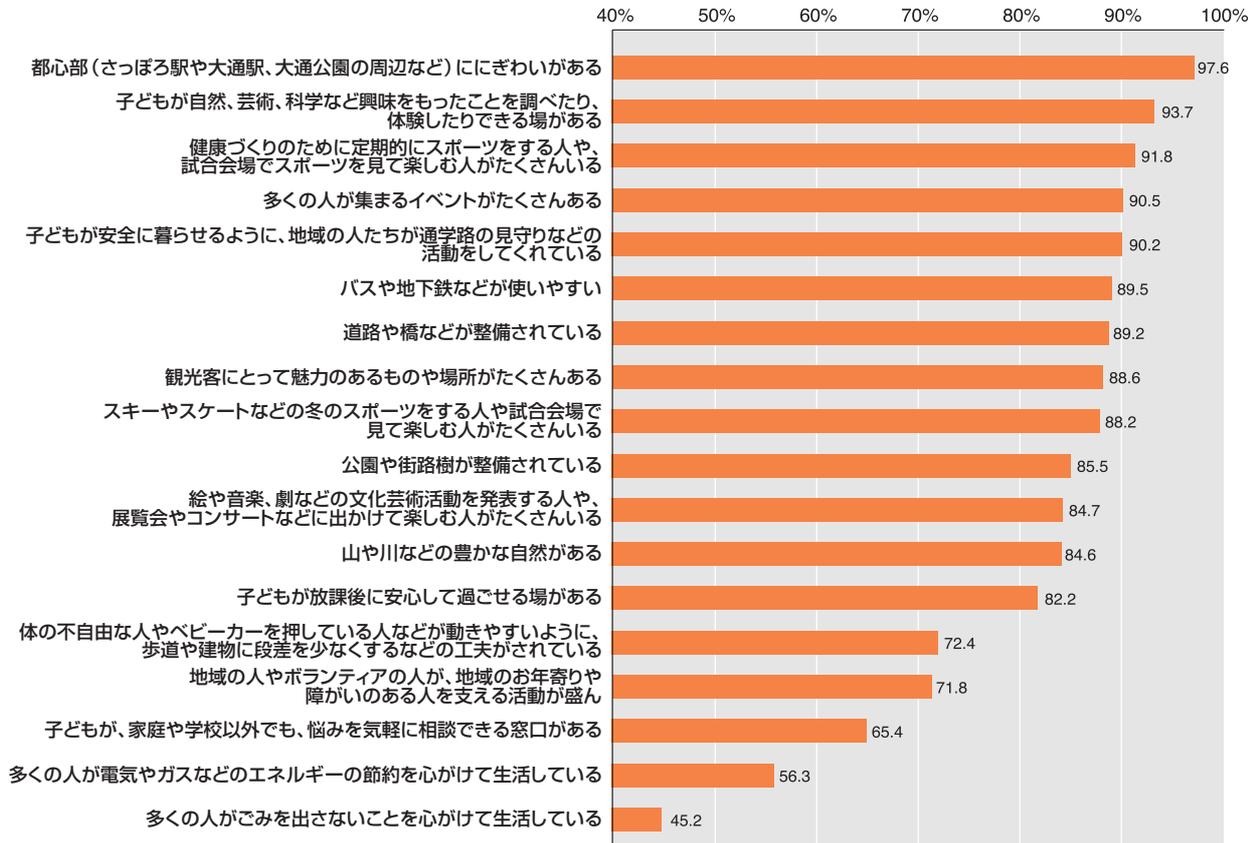
【寄せられた意見件数】

分野	まちづくりの担い手				合計	
	市民	町内会・NPO等	企業・事業者等	議会、行政		
役割や活動に関する意見	子育て、教育	3	2	6	5	16
	市民自治、経済	18	14	23	24	79
	福祉	13	5	4	6	28
	環境、安全・安心	12	5	11	8	36
	都市整備、都市の魅力づくり	7	3	6	3	19
まちづくりの担い手となる組織のあり方に関する意見						
	17	42	21	7	87	
その他						
					4	

※複数の分野に関する意見については、それぞれの分野で件数を計上。

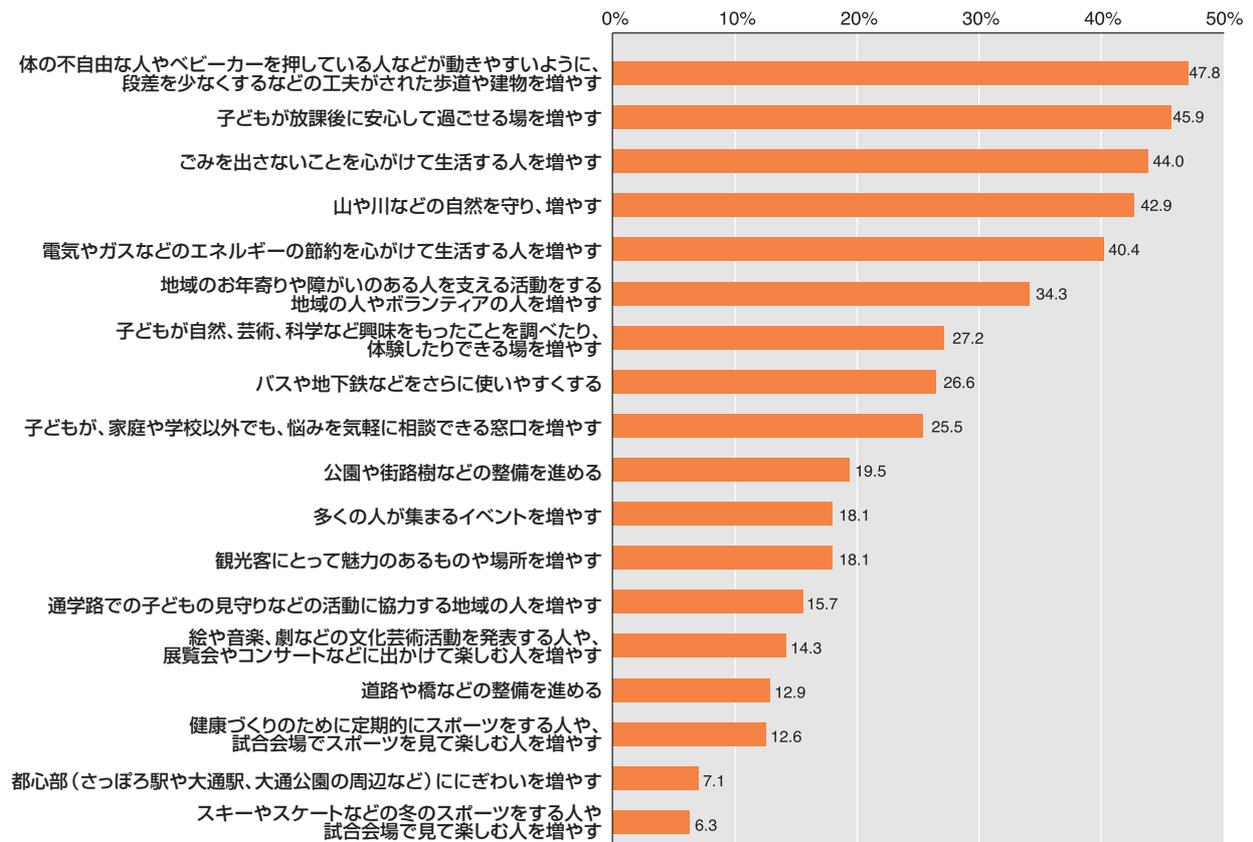
3 子どもアンケート

① 今の札幌市の状況について



※各設問で、「そう思う」「ある程度そう思う」を選んだ割合

② 住みよいまちをつくるために、特に力を入れていくことが大切だと思うもの(5つまで)



4 まちづくりに関する意見（市民意見募集、有識者・子どもアンケート、まちづくりトーク）

市民意見募集（ハガキ、FAX、Eメール等）により寄せられた意見、有識者・子どもアンケートの自由記載欄の意見、まちづくりトーク来場者の意見を分野別にまとめたところ、以下のとおりでした。

主な意見とそれに対応する計画の施策部分は次ページ以降に示しています。

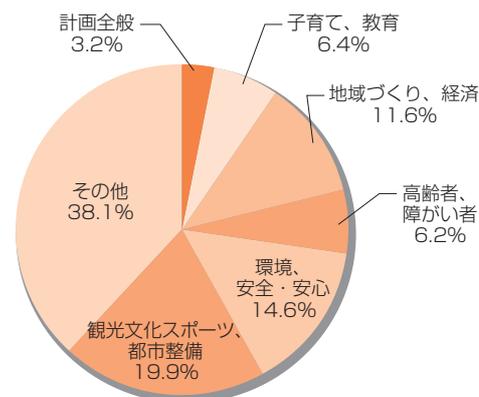
【寄せられた意見件数】

分野	項目	市民・有識者	まちづくりトーク	子ども
計画全般に関する意見		15	15	0
子育て、教育	子育て		16	7
	教育		14	33
地域づくり、経済	地域づくり、まちづくり		28	6
	企業・人の支援		20	7
	新産業育成、企業誘致		6	0
高齢者、障がい者	高齢者		14	17
	障がい者		15	30
環境、安全・安心	水とみどり		22	106
	地球環境問題		33	54
	日常の安心		9	43
	災害対策		4	0
観光文化スポーツ、都市整備	文化芸術振興		20	11
	スポーツ、健康		9	16
	都市整備		46	25
	集客交流		18	24

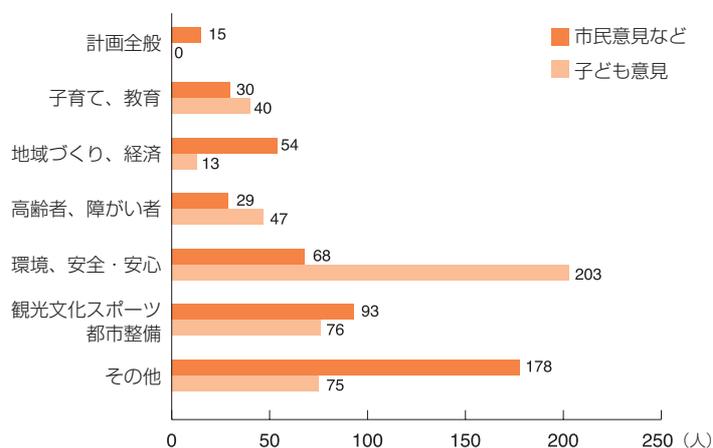
分野	項目	市民・有識者	まちづくりトーク	子ども
その他	行財政運営		83	4
	市民サービスの向上		6	3
	まちのあり方		7	1
	動物保護、駆除		4	1
	風紀		6	44
	人権、平和		3	0
	その他		69	22
合計	921件	467	454	

※市民意見157件、まちづくりトーク100件、有識者アンケート210件、子どもアンケート454件

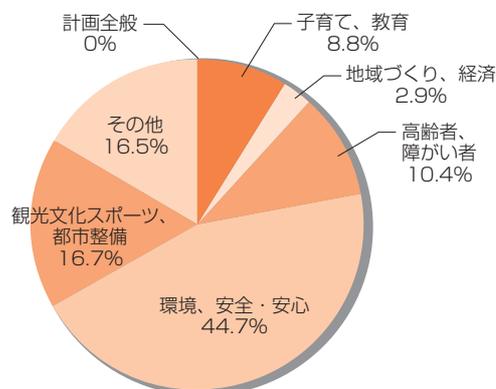
市民・有識者・まちづくりトーク意見



市民意見・有識者アンケートなどと子どもアンケートの状況



子どもアンケート意見



政策目標1 子どもが生き育てやすく、健やかにはぐくむ街

重点課題	主な意見の要旨	対応する計画の施策部分
重点課題1 子どもを生き育てやすい環境づくり	父親の育児参加を推進する。 【市民意見】	子育てしながら働きやすい職場環境づくりを進めるなど、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指す企業の取り組みを促進する。
	子どもを生き育てる期間は、社会全体でサポートするような環境になるといい。 【市民意見】	
	妊娠などで仕事ができない状態になっても、安心して休める社会になってほしい。 【子どもアンケート】	
	認可保育所に空きがないなど、生みたくても生めない状況を改善してほしい。 【まちづくりトーク】	
	生まれた子どもといっしょに親も成長していける環境を整えてほしい。 【有識者アンケート】	気軽に自由に交流や情報交換ができる、地域主体の子育てサロンの支援・拡充を行う。
	子育て講座や情報提供による、親への子育てに関する啓発などの支援。 【有識者アンケート】	出前子育て相談の実施や、区保育・子育て支援センターの整備など、情報提供や相談支援体制を充実する。
	子育てに対して一人で悩まないで、身近な人などに話せる環境づくり。 【有識者アンケート】	
	民間（NPO）を含めたネットワークの質的充実など、多様なシステムをつくってほしい。 【市民意見】	企業・団体などと連携した子育て活動を促進する。
重点課題2 未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実	小学校の空き教室や体育館を利用してその地域にあった行事などを行い、異年齢の人の交流を。 【市民意見】	家庭教育に対する支援や学校施設の開放を通じて、家庭や地域との連携を深める。
	教育は一律でなく、個人の能力に応じた教育が必要。 【有識者アンケート】	生徒・学生の個性を尊重し、多様な選択肢を提供するため、市立高校、市立大学における教育環境の整備を推進する。
	いじめを受けた被害者といじめの加害者の心のケアをもっと充実させてほしい。 【子どもアンケート】	いじめや不登校に対し、スクールカウンセラーの充実や、地域、関係機関との連携を深める。
	「学校」という場に気軽に話せる人を置くべきでは。 【子どもアンケート】	
	虐待については、丁寧に真剣に対応することが必要である。 【市民意見】	身近な地域での相談支援体制の強化や小規模養護施設の新設を進める。
	職業体験をしてお金（架空のもでもOK）を得て最後には遊べるような制度を。 【子どもアンケート】	社会的体験や野外体験、文化芸術体験などを通して、個性や能力を伸ばし豊かな感性や自ら考える力をはぐくむための取り組みを進める。
	林間学校など、色々な分野の子ども同士が触れあえる機会をつくってほしい。 【子どもアンケート】	

政策目標1 子どもが生き育てやすく、健やかにはぐくむ街		
重点課題	主な意見の要旨	対応する計画の施策部分
重点課題2 未来を担う子どもが 健やかに育つ環境の 充実	子どもが安全に楽しく遊べる場所があるといい。 【子どもアンケート】	子どもたちが適切な保護・指導のもとで安全に健やかな放課後を過ごすことができる環境づくりを進める。
	中学生が放課後に自由に集い、遊ぶことができる健全な場の設置が必要。 【市民意見】	

政策目標2 主体的な活動が生まれ、経済の活力がみなぎる街		
重点課題	主な意見の要旨	対応する計画の施策部分
重点課題1 市民の主体的な地域 づくりの支援	生活向上のための地域づくりには、まちづくりセンターを中心とした自治活動による取り組みが必要。 【市民意見】	地域の主体的なまちづくりをさらに活発なものとしていくため、一部の地域におけるまちづくりセンターの地域自主運営化を行うなど、市民自治の実践による地域づくりを進める。
	住民生活に関わるものは地域住民が、市全体の構想に関わることは行政が取り組むなどの役割分担が必要。 【市民意見】	
	まちづくりには、地域の代表や学識者が地域の意見を集約したものを、地域全体で討議をする過程が必要。 【まちづくりトーク】	町内会などの地域活動団体からなるまちづくり協議会を基礎に、市民意見を市政に反映させるしくみとしての「区民協議会」の設置を進める。
	市民が考えることから参加するのではなく、楽しさに引き込まれてまちづくりに参加する仕掛けが必要。 【市民意見】	子どものまちづくり活動参加を促進する取り組み、担い手と活動団体を結びつけるための総合的な情報発信など、多くの市民がまちづくり活動に参加できる環境づくりを行う。
	子どもたちの発言の場があることを知ってもらうために、子ども版ワークショップをたくさん開催すべき。 【子どもアンケート】	
重点課題2 札幌の経済を支える 企業・人の支援	札幌の産業を支えているのは大多数を占める中小企業であり、その中小企業の振興なしには経済の発展は望めない。 【有識者アンケート】	中小企業のニーズを把握し、より実効性のある支援施策を立案・推進する。
	若者への就労支援。 【有識者アンケート】	若者の職業意識を高めるため、就業体験を中心とした総合的な就業支援を行うとともに、本市が重点的に振興を図っているIT、デジタルコンテンツ、コールセンター、観光産業などで必要とされる人材を育成し、新規の雇用創出につなげる。
	働く機会の創出、場所の提供。 【有識者アンケート】	
	雇用機会の創出を願いたい。 【有識者アンケート】	
重点課題3 札幌らしい新産業の 育成と企業の誘致	札幌市が地域情報のポータルサイト（総合窓口）となり、札幌に在住している人のふるさとをPRできる場を提供する（物販を含む）。 【市民意見】	道都としての札幌の集客力・発信能力を最大限に活かし、北海道全体の魅力を向上させる拠点の整備を進める。
	努力や創意工夫によって産業や商業を興隆させることが可能なわずかな支援（資金と場所）が必要。 【有識者アンケート】	大学構内に設置される起業家育成施設などを有効に活用し、大学の優れた研究成果と企業の技術力の融合を図り、研究開発を促進する。
	大学と企業の結びつく場の提供。 【市民意見】	

政策目標3 高齢者・障がい者へのめくもりあふれる街		
重点課題	主な意見の要旨	対応する計画の施策部分
重点課題1 高齢者の地域生活 支援の充実	市民参加の具体化に期待する。長寿の社会で、高齢者は時間の余裕がある。新鮮で魅力を感じ、容易に参加できる機会を創造してほしい。 【まちづくりトーク】	多様な価値観を持つ高齢者が生きがいを持って地域生活を送れるよう、高齢者が自らの人生で培ってきた経験・知識・技術などを発揮できる社会参加の機会の拡充に努めるとともに、社会貢献などの先駆的な生きがい活動を支援する取り組みに対する支援の充実に努める。
	高齢者や障がい者がこの街に住んでいて良かったと思えるような社会的弱者にやさしい街であるように施策を推進してほしい。 【有識者アンケート】	町内会などによる地域に密着した日常的な支援活動との一層の連携強化を図るとともに、複雑化、高度化する課題に対応するための各分野の専門家などの新たなネットワークへの支援を促進し、地域で生活する高齢者が安心して日常生活をおくることができるよう多方面からサポートする地域福祉力の向上に努める。
	高齢者が安心して健やかに暮らせるためには、病気になるようにする予防活動が重要であり、最重要課題として取り組むべき。 【市民意見】	高齢者が地域で安心して健やかに生活できるよう、介護予防サービスの充実に努め、サービスの利用を促進するとともに、高齢者が自ら要介護状態となることを予防するための拠点施設のさらなる拡充を図る。
重点課題2 障がい者の自立支援 の促進	障がいのある人、高齢者のために安心して暮らせる地域をつくってほしい。 【子どもアンケート】	障がいのある人の健やかで安心した地域生活を支えるために、相談支援や療育支援の体制をより一層充実させるとともに、地域全体で支えるネットワークを構築し、障がいのある人も地域の一員として、共に支え合いながら、共に生きていける地域づくりを進める。
	障がい者が真に自立できる支援策が必要。就労支援の推進策が必要であり、ノーマライゼーションの先進国を参考にした取り組みが必要。 【市民意見】	障がいのある人の就労を促進するため、障がい者を雇用する企業への支援を行うことにより、企業側の障がい者雇用に対する理解の促進を図るとともに、障がいのある人と企業のニーズのマッチングや地域活動支援センターを活用した支援を充実することにより、就労に向けた能力アップや職場定着に係る支援体制の整備を進める。 また、福祉的就労に対する支援として、「元気ショップ」の拡充など授産製品の販路拡大や地域活動支援センター等の機能強化などを通じて、障がいのある人の働く意欲を増進し、自立の促進を図る。
	バリアフリーの徹底をしてほしい。 【有識者アンケート】	交通環境の整備、身近な施設のバリアフリー化などを引き続き計画的に進めていくとともに、障がいのある人などの力を借りて、人の目で確認していく新たなバリアフリー化の基準の策定などを通じて、障がいのある人をはじめ、誰もが安心して安全に活動できる、やさしいまちづくりを進める。

政策目標4 安全・安心で、人と環境にやさしい街

重点課題	主な意見の要旨	対応する計画の施策部分
重点課題1 水とみどりの保全・育成と創出	自然を大切に守っていくべき。 【子どもアンケート】	今ある豊かなみどりが失われないように、季節感ある山並みや市街地に点在する緑地について、多様な制度の活用や公有化することなどにより保全する。
	今ある木はなるべく切らないで残してほしい。 【子どもアンケート】	
	もっと緑を増やしてほしい。 【有識者、子どもアンケート】	市民・企業などと連携して積極的にみどりを創出するとともに、街路樹のボリュームアップに努め、みどりを基調とした美しい風格ある街並みをつくりあげていく。
	市街地の植樹樹の手入れや街角の花壇の整備を進めてほしい。 【有識者アンケート】	
	木や花を植える活動をしたい。 【子どもアンケート】	
	きれいな川を守ることが大切だと思う。 【子どもアンケート】	水辺の良好な水質を確保するとともに、自然と人がふれあえる豊かで親しみのある水辺を保全・創出する。
	みんなが遊べる川があるといいと思う。 【子どもアンケート】	
自然を守る人材の育成が必要。 【市民意見】	身近な水やみどりに気軽にふれあえる機会を広げる市民の自発的活動を支援し、参加の輪を一層広げる。	
重点課題2 地球環境問題への対応と循環型社会の構築	「環境への取り組みがこのまちの文化である」と位置付け、まちづくりを考えることが必要であると思われる。 【有識者アンケート】	市民一人ひとりに求められる環境行動についての情報提供や継続的な実践に結びつけるための取り組みを進めるとともに、環境配慮について自ら考え、自発的・継続的に行動できる人や街づくりのための体験学習を重視した環境教育を進める。
	多くの人が、環境問題を悪化させないよう心がけて行動するようになってほしい。 【子どもアンケート】	
	環境問題の多くは一人ひとりの意識の持ち方で大きく変わる。まずは子どものうちから環境教育に力を入れることが必要だと思う。 【有識者アンケート】	
	活用が見込める環境負荷の少ないエネルギーの量を測り、そのエネルギーをどう使うかを研究することが必要。 【市民意見】	市民や事業者の自主的な省エネルギーへの取り組みや新エネルギー導入などを支援するしくみづくりを行う。
	水や電気、ガスを節約して使うようにしたらいいと思う。 【子どもアンケート】	ごみ減量やリサイクルなどの推進を図るため、札幌市一般廃棄物処理基本計画を改定して今後のごみ減量・リサイクルの具体的な取り組みを示すとともに、市民・事業者との協働による多様なリサイクルルートの確保やごみ減量実践活動の支援などを進める。
	なるべくごみを出さないことを心がけたい。 【子どもアンケート】	
	家庭ごみの多くを占める紙類は分別して集団資源回収に出すなどして、ごみの量を減らすようにすべき。 【市民意見、まちづくりトーク】	
まだ使えるものはリサイクルする。 【子どもアンケート】		

政策目標4 安全・安心で、人と環境にやさしい街		
重点課題	主な意見の要旨	対応する計画の施策部分
重点課題3 日常の身近な暮らしの安心の確保	防犯パトロールができる環境整備が必要。 【市民意見】	地域の防犯活動を支援するしくみづくりを行うとともに、犯罪の起こりにくい環境の整備を進めていく。
	繁華街や飲食街などの公共的空間における安全対策を強化すべき。 【有識者アンケート】	
	子どもが安心して暮らせるように、通学路の見守りに参加する人を増やしてほしい。 【子どもアンケート】	子どもを犯罪から守る取り組みなど、地域の安全を地域で守るためのさまざまな事業を展開する。
重点課題4 災害に強い安全なまちの整備	安心安全は地域での支え合いが過去の災害から経験をしてきているのでこれを参考にすべき。 【有識者アンケート】	災害時に手助けが必要な高齢者や障がいのある人などへの支援のため、地域の取り組みを促進する。
	札幌で新潟県並みの地震が発生したらどうなるかが心配である。 【まちづくりトーク】	公共施設のうち耐震性が低い施設について、耐震補強などを実施するとともに、橋りょう、下水道施設、水道配水管などのライフラインについて、優先度の高いところから耐震化を推進する。
	札幌市の集中豪雨時の対策は行っているのか。 【まちづくりトーク】	浸水が頻繁におこることが想定される地域での浸水対策や豊平川札幌地区河川防災ステーションの整備など、防災力の向上を図るため計画的な施設整備を行う。

政策目標5 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街		
重点課題	主な意見の要旨	対応する計画の施策部分
重点課題1 札幌の特色を活かした文化芸術の振興	もっと音楽や芸術に満ちた札幌であってほしい。PMFやシティ・ジャズで経済効果や札幌のブランドイメージも高まる。 【市民意見】	優れた芸術やさまざまな文化活動まで、市民が多様な文化芸術に触れ、親しむことのできる機会を一層充実させる。札幌の文化芸術の魅力を活用・発信し、集客交流を促進する。
	各区域に地域市民がさまざまな文化芸術を楽しみながら実践し、表現・発信できる環境を整備する必要がある。 【市民意見】	小学校跡施設を活用した文化活動の拠点づくりなどの環境づくりを進める。市民相互の連携や市民の主体的な取り組みを促進していくために、文化芸術活動の場の支援などを行う。
	美術館を増やしてほしい。 【子どもアンケート】	子どもが文化芸術に触れ、創作活動を行うことによって豊かな心をはぐくむことのできるよう、芸術の森に体験型施設を整備する。
	自然、芸術、科学などを体験できる場所を整備してほしい。 【子どもアンケート】	
	古くて趣のあるものや、デザインの優れた建築の保護や、維持の手助けが必要。 【まちづくりトーク】	札幌の歴史を守り伝えてきた地域の優れた自然、文化、史跡などの文化遺産を保存し、活用していくため、歴史的建築物の保全や文化財施設の整備・補修など、必要な環境整備を図る。
	洋楽だけでなく、日本の音楽にも目を向けてほしい。北海道にはアイヌ文化や日本伝統文化もある。 【まちづくりトーク】	地域に根ざした伝統文化や先住民族文化について、広く市民への周知や市民理解を図り、保存伝承の機運を高めていくための支援や環境づくりを行う。

政策目標5 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街		
重点課題	主な意見の要旨	対応する計画の施策部分
重点課題2 スポーツを楽しむ 環境の充実と健康 づくりの推進	さまざまなスポーツイベントやスポーツのできる場を増やしてほしい。 【子どもアンケート】	市民が気軽にスポーツ・運動を楽しむことのできる環境を整備する。市民の「する」スポーツの振興を図るため、地域に出向いてさまざまなスポーツ活動の機会を提供する事業を展開する。
	クラブ活動の充実。やりたいスポーツができるように指導者を増やしてほしい。 【市民意見】	市民による札幌らしい総合型地域スポーツクラブの設立を促進するなど、地域密着型のスポーツの普及・啓発を行う。
	公共施設以外の場所では未だ、受動喫煙による被害に悩まされている人が大勢いる。 【まちづくりトーク】	地域での市民の健康づくりを進めるため、「健康さっぽろ21」の後期計画の推進など、市民一人ひとりの健康づくりを支援する。
	スキー授業（小・中学校）の再開。 【有識者アンケート】	市民のウインタースポーツへの関心を高め、ウインタースポーツ活性化のための取り組みとして、小・中学校でのスキー学習への支援などを行う。
重点課題3 将来を見据えた魅力 ある都市の整備	札幌市の都市整備において、都心地区のリニューアルは重要な課題。 【有識者アンケート】	土地利用と交通対策を的確に組み合わせることで、民間都市開発と公共事業を連携させ、都心を市民生活を豊かにする都市機能の集積地点として再整備を進める。
	市民の自転車マナーの向上や駐輪場、自転車専用レーンなどの確保。 【市民意見】	自転車利用について、走行空間や駐輪対策、利用ルール・マナーなどの考えを総括した総合計画を策定するなど、だれもが安心して安全に移動できる交通環境づくりを進める。
	地下鉄・市電・バスなどの公共交通の整備・充実。 【有識者アンケート】	地球環境への負荷軽減や高齢社会の進展に伴いその重要性が高まる公共交通について、誰もが利用しやすい環境を目指し、駅のバリアフリー化や乗継環境の向上、ICカードの導入など、利便性の向上に向けた取り組みを進める。
重点課題4 新たな集客交流資源 の創出と魅力の発信	自然を使ったイベントを増やしてほしい。1年を通じて、札幌らしさを出してほしい。 【子どもアンケート】	さっぽろ雪まつりやライラックまつりなど札幌の四季の魅力を発信するイベントや札幌の代表的な観光スポットである藻岩山などの既存の観光資源について、より多くの観光客が訪れ楽しめるよう、さらなる魅力アップを図る。
	札幌にしかできないようなイベントなどを開き、人がたくさん集まるようにする。 【子どもアンケート】	都心の魅力や美しい都市景観、食や文化芸術といった札幌独自の魅力を融合させ、新たな観光魅力づくりや観光資源の発掘を推進する。
	洞爺湖サミットが開催される、この機会を多いに活用し、世界にアピールする。 【市民意見】	北海道洞爺湖サミット開催に合わせた関連事業への支援などを実施する。
	道内各市町村との連携による産業振興。 【有識者アンケート】	道内各市町村と連携し、国内外へ向けた食や観光資源などの情報発信や特産品の販売を行うための拠点を都心に整備する。

4 さっぽろまちづくりトーク

- 1 **開催趣旨** 第2次札幌新まちづくり計画の策定方針や重点課題などについて、市民の皆さんに情報提供することや、まちづくりについての意見を収集するために、まちづくりに関するシンポジウム「さっぽろまちづくりトーク」を開催しました。
いただいたご質問・ご意見については、施策の検討や、計画事業を選定する際の参考としました。

2 **日時** 平成19年8月27日（木） 18:30～20:30

3 **会場** ホテルニューオータニ札幌（来場者約200名）

4 プログラム

市長メッセージ

「市民の力みなぎる文化と誇りあふれる街を目指して」

まちづくりの目標、市民自治、市民が誇りを持てるまちづくり、道内各市町村との連携の必要性などについて、市長からお話しました。

座談会

「市民の元気と市民の英知が、さっぽろの未来を創る」

司会兼座談者	林 美香子 氏	キャスター・地域まちづくりコーディネーター
座談者	海老名 誠 氏	小樽商科大学ビジネス創造センター長 教授
座談者	林 美枝子 氏	札幌国際大学人文学部現代文化学科教授
座談者	上田 文雄	札幌市長

以下のような事柄について、意見交換が行われました。

- 札幌のまちづくりにあたっては、「北海道の中における札幌」という視点を持ち、周辺市町村との連携を図ることが大事である。
- 市民自治を考えたとき、札幌に住んでいる人だけではなく、一時的な市民にどう関わっていただくかという視点を常に持っている必要がある。
- 市民と行政の関係を考えると、市民が困ったときに、行政が必要な支援の手をタイミングよく差し伸べてくれるような関係が一番いいのではないか。
- 地域づくりの先進地とよばれるところは、地道な活動を長くやっており、一朝一夕によいまちづくりはできない。審議会への公募委員の登用や草の根的なまちづくりの勉強会を推進するなど、協働のまちづくりを進めていくためのシステムづくりが必要。
- 札幌は、自然環境や観光スポット、文化資源など、基礎条件が整っており、国際都市になれる力がある。札幌市民が、それらの価値に気づき、より一層の情報発信とその活用を考えていくべきであり、これは経済的な効果につながっていく。
- 道内の大学生は、卒業後に4割が道外に就職している現実がある。有能な大学生を道内で就職させて北海道の経済を元気にしていく、そのようなサイクルの確立が必要。

来場の方々からの質問・意見に基づく座談者によるフリートーク

来場された皆さんからのご質問・ご意見について、座談者から以下のようなコメントがありました。

	来場者の主な意見・質問	座談者のコメント(要旨)
1	○まちづくり活動を特別な人の活動ではなく、みんなの活動にしていくなめには何が必要か。	○すべての人たちが、最初の一步は自分で踏み出す勇気が必要ではないか。 ○まちづくりに参画していることが楽しくなるような仕掛けを考えることが必要。 ○参加する側は、自分に興味のあること、好きなことから始めることが、まちづくり活動の一步としてはいいのではないか。
2	○子育てを社会全体でサポートしていくようなまちになるといい。	○親の手を通じた支援だけでなく、子どもが自分で育つ力を支援してあげる、という視点も重要である。 ○親同士が交流できる場である「子育てサロン」などの事業を実施している。社会全体が子育てに対する支援をしていく枠組み・方向性をつくるのが行政の仕事と考えている。
3	○市民の民度を高めるためにどういう仕掛けが必要か。	○日本では、責任を他人に押し付ける傾向があることが気になる。多くの人たちが平和に暮らしていくために、お互いに被害を与えないという当然の社会のルールを守らせることが必要。
4	○若い人たちが安心して働くことができることが、よいまちづくりにつながる。	○企業の投資意欲を引き出すものは、やはりまちの魅力である。行政が一生涯懸命まちづくりを行っていくことにより、しっかりした企業が生まれ、発展する可能性も出てくると思う。
5	○長寿命化で、高齢者には時間の余裕がある。魅力的な市民参加の機会をつくってほしい。	○高齢化を単に実年齢のみで定義するのではなく、年齢の上の方から14%を高齢者と呼べばよいのでは、という意見もある。高齢の方々力を活かすために、老いるという概念を変えていくことも必要。
6	○安全なまちの整備のために、自助・共助能力を高める政策を。	○ニューヨークでは、市長の政策により、非常に安全なまちに変わった。安全に問題がある地域があるとすれば、権力をもってそれを排除する、というようなことも時には必要である。

5 大学との意見交換、出前講座

■大学との意見交換

- 開催趣旨** 第2次札幌新まちづくり計画の策定方針や重点課題などについて、情報提供するとともに、今後のまちづくりに関する施策の参考とするために、公共政策に関連する大学の研究者や学生を対象として、まちづくりの方向性などについての意見交換を実施しました。
- 日時** 平成19年7月10日（火）10:00～12:00
- 参加者** 北海道大学公共政策大学院 石井吉春教授、荒田英知教授、大学院生6名
札幌市 まちづくり関係部局の職員
- 主な意見**

- 団塊の世代や学生を取り込むことが重要。具体的な状況をもとにして、市民に問題を提示する、ということがあっても良いのではないかと。
- ごみ減量について、例えば経済局の「札幌スタイル」事業で、ごみ減量関連商品を取り上げるなどの連携は考えられないか。学生に研究させるのもいいのではないかと。
- 市民の行政への参加については、動機付けを与える機会が足りないのではないかと。市民への情報提供にとどまるだけでなく、より自発的に参加してもらうようにすることが大切であると。

■出前講座

- 実施趣旨** 第2次札幌新まちづくり計画の策定方針や重点課題などについて、市民のみなさんに情報提供することを目的として、市民の皆さんのご要望に応じて職員が地域に出向き、分かりやすく具体的な説明を行う「出前講座」を実施しました。
- 実施回数** お申しいただいた町内会や団体の方々などを対象に、計6回開催
(参加者合計：約110人)
- 主な質問**

- 前回の計画と比較して大きく変わった点は何か。
⇒ 5つの政策目標は、市長のマニフェストから、15の重点課題については、新まちづくり計画を引き継いでいる。今日的な課題として追加したものは、安心・安全の視点。ただし、基本的には前回の計画を踏襲している。
- 各区の計画は、どういう位置づけなのか。
⇒ 各区では、新まちづくり計画とは別に、区の実施計画を毎年作成しており、その計画に基づいて事業を実施している。各区の取り組みも、計画に位置づけられると考えている。各区で抱えている問題は、地域に密着しているものであり、それらに対応すべく、毎年、各区に3,000～4,000万円の予算が配分されている。各区で実施している事業の中でも特に重点課題に関連するものについては、きちんと計画に位置づけていこうということである。